

平成28年度 新発田市総合学習部 活動報告

部長 豊野 静香

1 研究主題 子どもの思いを大切にした総合の在り方

2 研究の概要

4月12日(火)第1回 研修テーマ・活動計画立案

6月14日(火)第2回 教材研究「新発田の食材を使った料理について」

11月11日(金)第3回 授業研究 第4学年「伝え合う心」

授業者 上田 英司 先生(猿橋小)

指導者 須貝 克徳 様 (亀代小)

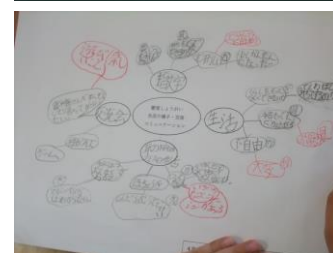
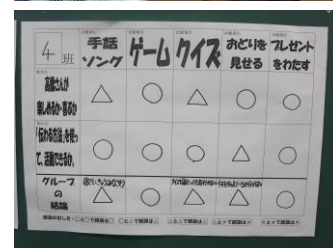
3 研究の実際

(1) 第2回部会

第2回部会では、新発田の特産であるアスパラのピューレを使った「アスパラ緑カレー」の実技研修を行った。今後、家庭科・社会科、食育などに関連させた総合的な学習の活動の一つとして生かしていきたい。

(2) 第3回部会

第3回部会では、国語「伝え合う心」と関連させた「福祉」がテーマの授業研究を行った。本時は、ゲストティーチャーとしてお話をうかがった聴覚障害のある方との「交流会」の活動内容を決定する活動だった。グループで話し合う際「何を大切にしなければいけないか(=視点)」を子どもたちと決め、「聴覚障害のある方が楽しめるか・喜ぶか」と、「伝わる方法を使って、活動できるか」の2つを話し合いの柱とした。この2つの視点と活動内容の「マトリックス表」を使って検討することで、それぞれの活動内容の必要性と妥当性を焦点化して話し合うことができていた。その後、それぞれのグループの考えのズレを全体で検討した。「手話ソング」を妥当としていたグループも、聴覚障害のある方の生活の様子を想起し、「聴覚障害のある方は「歌」が分からない」「伝わる手話を覚えるのは難しい」など、自分たちがやりたいことから、2つの視点を深めた話し合いとなった。また、学習後の振り返りは、「イメージマップ」を使い、今日の学習の感想や考えを追加していくことで、思考や関心の広がりや可視化、共有化できていた。本時に至るまでの丁寧な学習が生きて、子どもたちがよく考え、話し合っていた。授業後の協議会・御指導では、この学習で獲得した見方考え方を、障害をもった方だけでなく日々のかかわりの中で生かし、実感につなげていくことが生きた力になることをご指導いただいた。そのためには、単元の中で、めざす子どもの姿や育てようとする資質・能力は何か、そして、その手立てをどうするかをとらえて活動を組み、探究のスパイラルを回していくことの大切さを共有することができた。



4 成果と課題

自己の生き方の見直しにつなげる総合学習にしていく大切さを、再認識することができた。また、出会いの良さが、活動の原動力になることを学ばせていただいた授業であった。さらに、探求的な活動を可能にする手立てが満載で、これからの活動にすぐに生かすことができるものであった。新発田市では、「日本語」が総合学習に入るため、時数が45時間と限られる。今年度の部会で得られたものを生かして、子どもに付けたい力を焦点化し、地域ならではの探求的な活動を組み、自己の生き方を考えることができる子どもの育成を目指していきたい。

